

2012年

相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会 相双COCOROニュースなごみ

第1号 H24年3月5日(月) 隔月発行
発行先 相馬広域こころのケアセンターなごみ編集部

理事長 丹羽 真一よりご挨拶



はじめまして。相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会の理事長を拝命いたしました丹羽でございます。当会のニュースレターを発行し、会の事業についての御理解を頂き、多くの皆様に当会へご参加いただけるように祈念いたしまして、御挨拶を申し上げます。

当会は平成23年9月に第一回総会を開催いたしまして、同年11月に県の認可を得ることができました。認可を得るに至るまでには、会の設立をはじめ、相双地域の皆様の多大な御支援を頂きましたし、全国の精神科医療保健福祉にかかわる多くの方々からの御支援もいただきました。この場をお借りして、こうした御支援に心からの御礼を申し上げます。

当会は東日本大震災と福島第一原発事故のために福島県太平洋岸の相双地域にあった精神科医療保健福祉の施設が、閉鎖や移転、縮小を余儀なくされてしまい、心の健康を守り増進するための機能が損なわれたあとを、早期に復興・新生することを目指して活動を進めてまいりました。相馬市の公立相馬総合病院と相馬市保健センターに間借りをいたしまして、精神科医療と保健サービスを行うボランティア活動を福島医大こころのケア・チームが中心となって進めてきた活動が母体となり、福島県や米国日本人医師会、CWAJ、世界の医療団、ヤマト財団、日本財団などからの財政的御支援をいただくことで、相双地域の精神科医療保健福祉の復興を願う幅広い方々の力を結集して、24年1月10日から、相馬広域こころのケアセンター「なごみ」を開設して、訪問サービスや住民の保健活動、住民支援者の支援活動を行う事業を進めるようになりました。当会は、相双地域の各精神科医療施設との連携を保ちながら、24年1月から開設されましたメンタルクリニック「なごみ」(個人開業、新垣元院長)とも良い連携をはかり事業を展開してまいります。

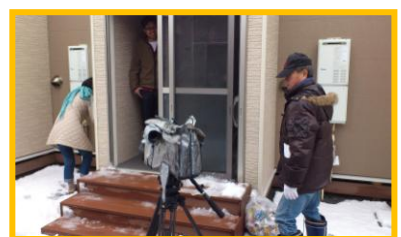
東日本大震災と原発事故の被害を早期に乗り越え、相双地域の精神科医療保健福祉が新しく、力強く発展してゆけるように微力を尽くしてまいりますので、どうぞ多くの皆様と一緒に歩んでくださいますように御願い申し上げます。御挨拶といたします。

DVD撮影 活動紹介

平成24年1月20日(日)福島県相馬郡新地町小川北原の仮設住宅にある一室の集会所をお借りして、こころのケアセンターのスタッフ5名、相双保健福祉事務所の障がい者支援チームと新地保健センター保健師3名の協力をいただき仮設住宅への全戸訪問実施方法に関する教育用DVDの作成の撮影を一日かけて行いました。

アルコール問題の一人暮らし役のOさんは、髪をくしゃくしゃにして、髭を伸ばした役柄になりきったり、なかなか話が終わらない入居者役のSさんは、話を長くする為の大量のバナナやお菓子等の小道具を用意し撮影に臨むスタッフもいました。スタッフの撮影に対する意気込みを感じる事ができ、本番は台詞にはない会話やアドリブが飛び交い、相馬弁ではない方言?(笑)もあり、緊張しながらも楽しい撮影現場となりました。(文責 里美)

※この活動はNPO法人の「当該地域の医療、保健、福祉に関する書籍・DVDなどの発行・販売事業」の一環として行われました。



事例アルコール問題の撮影の準備中
事務長(大谷)役柄に集中??



台詞の読み合わせ中、みんな真剣です!



